

ISSN 1881 — 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：隅田 学
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2026.2.15
NO.276
.....

科学教育研究レター



目 次

■ 選挙管理委員会だより2	■ 国際交流委員会だより16
一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ		国際学会参加報告（77）	
■ 日本科学教育学会創立 50 周年記念事業企画・実行委員会4	8th ICASE World Conference on Science and Technology Education（アイルランド）のご案内	
科学教育啓発活動・イベント部門		国際ランチョンミーティングのお知らせ	
■ 年会6	国際学会開催情報	
第 50 回年会開催案内（第 3 次）		■ 若手活性化委員会だより21
■ 支部・研究会だより10	2025 年 日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）報告	
2025 年度研究会開催のお知らせ		若手研究者，「初心」を語る	
■ 調査研究・学術交流15	■ 編集委員会だより28
「研究倫理に関する基本方針」の制定について		特集のお知らせ（再掲）	
		「科学教育研究」編集状況報告	
		■ 広報委員会からのお知らせ33

一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

役員選挙管理委員会
・代議員選挙管理委員会

一般社団法人日本科学教育学会（以下本学会）では、定款に基づき、2026 年度以降（2026 年 7 月 1 日～）の代議員候補、及び、役員候補を選出するための選挙を実施します。2 つの選挙のための会告は会員の皆様に郵送にてお送りしております。本学会の役員・代議員にふさわしい方のご推薦をお願いいたします。学会 HP から様式をダウンロードしてご使用ください。また、下記事項についてもご確認ください。

（１）候補者の承諾について

候補者の推薦にあたっては、必ず候補者の承諾を得てから役員候補者推薦書及び代議員立候補・推薦用紙の提出を行ってください。

（２）役員候補者推薦書への押印について

役員候補者推薦書には、推薦責任者の押印が必要です。

代議員立候補・推薦用紙には、押印は必要ありません。

（３）役員候補者推薦書及び代議員立候補・推薦用紙のメール添付について

役員候補者推薦書及び代議員立候補・推薦用紙は郵送のほかにメール添付でも受け付けております。必ず事務局から受理メールをお送りしますので、万一受理メールが届かなければ以下の問い合わせ先までご連絡ください。

メールに添付する際には PDF 形式でお送りください。ファイル名は次のようにお願いします。

役員候補者（理事候補）・（会長候補）・（監事） 推薦書

yakuin_suisen_kagakutaro（候補者名ローマ字氏名）

代議員 立候補・推薦用紙

daigiin_rikko_ho_suisen_kagakutaro（候補者名ローマ字氏名）

問い合わせ先・送付先

一般社団法人日本科学教育学会事務局

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル西大路町 146 番地 中西印刷株式会社 役員・代議員選挙管理委員会 宛

E-mail：jsse(atmark)nacos.com ※(atmark)を@に変換してください

締切：2026 年 3 月 2 日

(4) WEB 投票サイトのログイン方法について

投票は専用の WEB 投票サイトで行います。ログインには、①会員番号、②パスワード（会員管理システム (Clara) のパスワード）が必要となります。パスワードをお忘れの方は Clara にて再設定可能です。事前にご確認ください。

科学教育啓発活動・イベント部門

最新情報は、年会サイト内の特設ページ <https://jsse.jp/jsseam/jsse50/jsse50th-event> に掲載します。

右の QR コードからも、年会サイト内の特設ページにアクセスできます。



会場：東京大学 駒場キャンパス（〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1）

https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map02_02.html

【ラウンドテーブル】

学会員、教育関係者、一般の方、高校生、中学生が一緒になって、未来の社会をみつめ、科学と教育について議論するラウンドテーブルです。

〔テーマ〕多様性と科学と教育（仮）

〔日 時〕2026 年 9 月 13 日（日） 13：00～15：00

〔対 象〕学会員、教育関係者、一般の方、高校生、中学生

〔参加申込締切〕2026 年 8 月 13 日（木）（先着 50 名）

ファシリテーターをしてくれる方も募集しています。申込の際に希望欄を選択してください。中学生・高校生がファシリテーターとして参加することもできます。

〔参加費〕中学生・高校生（引率教員や保護者の見学を含む）は無料

学会員を含むその他の方は、ラウンドテーブルの参加申込とあわせて、第 50 回年会の参加申込（有料）が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

【小中高生の探究発表】

小学生・中学生・高校生のみなさんが、日頃の探究の成果を学会で発表する場です。年会のインタラクティブセッション（研究者や大学生・大学院生のポスター発表）と一緒に開催します。学会員のみなさんは、小学生・中学生・高校生の探究発表を聞いて、是非、コメントやアドバイスをお願いします。

〔日 時〕2026 年 9 月 13 日（日） 9：00～11：00

〔対 象〕小学生、中学生、高校生

〔募集件数〕 合計 50 件（同一の学校は 5 件程度）

〔発表形式〕ポスター発表（サイズ A0） ポスターを作成して、発表当日に持参してください。

〔発表・参加申込締切〕発表申込：2026 年 6 月 19 日（金）

参加申込：2026 年 8 月 13 日（木）

〔参加費〕小学生・中学生・高校生（引率教員・保護者を含む）は無料

インタラクティブセッションへの参加も含みます。

引率教員・保護者が第 50 回年会の他のプログラムに参加する場合は、中高生の探究発表の参加申込とあわせて年会参加申込（有料）が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

※小学生・中学生・高校生は年会のすべてのプログラム(9/11-13の3日間)に無料で参加できますが、
教員や大人が引率してください。

【国際ランチョンミーティング】

年会2日目の9月12日(土)昼食時間に、国際交流委員会が「国際ランチョンミーティング」を開催します。海外からの留学生や訪問者も含め、学会員と一般参加者が、海外の学会での発表経験や国際的な科学教育研究について語り合う機会です。第50回年会では中学生・高校生の参加も可能です。国際ランチョンミーティングの案内は、JSSE レター次号に掲載予定です。

[日 時] 2026年9月12日(土) 12:30～13:45

[参加申込] 年会サイト <https://jsse.jp/jsseam/jsse50> の「国際交流委員会企画」に掲載予定です。

[参加費] 中学生・高校生(引率教員・保護者を含む)は無料

引率教員・保護者が第50回年会の他のプログラムに参加する場合は、年会参加申込(有料)が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

第 50 回年会 開催案内（第 3 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1. 年会テーマ：科学教育研究の半世紀とこれから
2. 日程：2026 年 9 月 11 日（金）～13 日（日）（3 日間を予定）
3. 会場：東京大学 駒場Ⅱリサーチキャンパス
（〒153-8505 東京都目黒区駒場 4-6-1）
<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/access/>
4. 連絡先：日本科学教育学会第 50 回年会実行委員会
E-mail：jsse50(atmark)iis.u-tokyo.ac.jp ※(atmark)を@に変換してください
5. スケジュール概要（予定） ※プログラム編成により変更になる場合があります。
11 日（金） 午前：研究発表
午後：研究発表 理事会（改選前）顧問・理事・支部長・代議員合同会議
12 日（土） 午前：研究発表 招待講演
午後：代議員総会・表彰 50 周年記念シンポジウム 懇親会
13 日（日） 午前：研究発表
午後：理事会（改選後） 研究発表（申し込み状況により設定）
*その他、50 周年記念企画、各委員会による企画、各委員会の会合等があります。
6. 内容：次の内容を予定しています。
(1) 招待講演（科学教育研究セミナー）
(2) シンポジウム
(3) 課題研究発表
(4) 一般研究発表（希望人数により英語セッションを設定予定です。英語セッションでの発表を希望される場合は「JSSE 年会申込 Web サイト」の記載に従って申し込みください。）
(5) インタラクティブセッション
(6) その他の企画（50 周年記念大会のイベントを企画予定です）
※年会のタイムテーブルは、2026 年 3 月下旬に年会 Web サイトにて公開予定。
7. 発表申込等について
(1) 課題研究発表の申込・原稿提出
特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします。企画をお持ちの方は応募ください。
<スケジュール（予定）>
・企画応募開始：2026年4月28日（火）【オーガナイザー → 年会企画委員会】

- ・企画応募締切：2026年5月15日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・受理審議：2026年5月18日（月）～5月22日（金）【年会企画委員会】
- ・審議結果報告：2026年5月25日（月）【年会企画委員会 → オーガナイザー】
- ・原稿提出期間：2026年5月27日（水）～6月19日（金）【オーガナイザー → アップロード】

※6月19日(金)は、登壇者がオーガナイザーに原稿を提出する期限ではありません。この日は、年会企画委員会への提出期限であり、「JSSE 年会申込 Web サイト」から原稿をアップロードしてください。提出方法については、従前どおり、オーガナイザーが登壇者全員分をとりまとめてアップロードする方法、または登壇者自身が各自でアップロードする方法のいずれかによりご提出ください。

<企画応募方法>

- ・年会Webサイト掲載の方法で、申し込んでください。

<原稿提出方法>

- ・年会Webサイト掲載の方法で、「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上、完成原稿（発表1件あたり4ページまたは2ページ）のPDFファイル（1ファイル約1MB未満、セキュリティなし）を提出（アップロード）してください。

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければなりません。
- ・登壇者：登壇者を企画応募締切までに確定してください。課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできません。登壇を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください。なお、登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には、申請用紙に記入してください。指定討論者については、重複を認めます。
- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問いません。ただし、非会員による発表件数は、原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします。やむを得ずに半数を超える場合は、企画応募締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません。非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議します。なお、受理された企画であっても、受理後に登壇者の変更がなされ、非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合、受理が取り消される場合もありますので、ご留意願います。

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

<スケジュール（予定）>

- ・申込及び原稿提出期間：2026年5月27日（水）～6月19日（金）
 ※申込と原稿提出を同時に行ってください。
 ※期日等に変更が生じた場合は、学会Webや科学教育研究レターなどで通知します。

<申込及び原稿提出方法>

- ・年会Webサイト掲載の方法で、「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上、完成原稿のPDFファイル（1ファイル約1MB未満、セキュリティなし）を提出（アップロード）してください。
- ・書式や留意事項等の詳細は、「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください。

<資格・登壇可能件数>

- ・登壇者資格：会員でなければなりません。

※本欄における「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します。ただし、発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、発表申込及び原稿提出期間の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とします。

- ・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は、各1件です。なお、一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は、課題研究、その他の企画にも登壇することができます。

＜発表時間＞

- ・一般研究発表の持ち時間は20分程度（発表15分、質疑・討論5分）を予定しています。
- ・インタラクティブセッションは 2 時間の発表時間を設定する予定です。

(3) 年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては、次の要件を満たすように心がけてください。

◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である。

◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である。

◆研究の背景

関連研究、依拠する理論、関連する実践等によって、研究の背景が明示されている。

◆研究の方法

研究の方法論、手順、計画などが適切で、それらが明示されている。

◆結果と知見

得られた結果、知見、アイデア等が明示されている。

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている。

8. 各委員会等による企画

(1) 若手活性化委員会

- ・11日（金）の午後にかけて、ワークショップを計画中です。

(2) 国際交流委員会

- ・12日（土）の昼食時に国際ランチョンミーティングを計画中です。

9. 年会の開催形態等について

- ・第50回年会は、現地での対面開催を基本とします。ただし、課題研究発表は対面とオンラインを組み合わせたハイフレックス開催も可としますが、その準備や運営については登壇者にさせていただきます。
- ・一般研究発表は対面での発表部屋とは別に、オンライン専用の発表部屋を設定する予定です（オンラインでの参加者は、対面での発表部屋には参加できないなどの制限があります）。インタラクティブセッションは、対面のみで実施します。
- ・オンラインでの参加・発表については、各自でオンライン会議システムZoom等のミーティングID、及び利用できる機器（パソコン・タブレット、イヤホン、マイク、モバイルWi-Fiルータ等）の準備をお願いします。

- ・論文集は、電子的方法にて配布いたします。
- ・会期中に台風・地震の災害が起こった際など、中止や開催方法の変更等の対応につきましては、開催校である東京大学の規定等を準用して判断し、年会Webサイト等を通じてご案内します。

10. 第 50 回年会実行委員会

委員長 大島 まり（東京大学）

委員 川越 至桜（東京大学）・上田 史恵（東京大学）・樗木 悠亮（東京大学）
玉澤 春史（東京大学）・沼田 宗純（東京大学）・森 晶子（東京大学）

11. 年会企画委員会

委員長 服部裕一郎（岡山大学）

副委員長 福田博人（岡山理科大学）、畠山 久（東京科学大学）

幹 事 石橋一昂（岡山大学）

担当理事 大谷 忠（東京学芸大学）、山本智一（兵庫教育大学）

委員 安部洋一郎（兵庫大学）、新井しのぶ（中村学園大学）、岡部 舞（大阪教育大学）、
小野寺かれん（岡山大学）、川越至桜（東京大学）、川崎弘作（岡山大学）、
木村優里（東京科学大学）、小泉健輔（横浜国立大学）、平林真伊（山形大学）、
増田有紀（埼玉大学）、谷田親彦（広島大学）、山中真悟（福山市立大学）、
山本輝太郎（金沢星稜大学）

2025 年度研究会開催のお知らせ

今後の開催計画

開催支部/委員会	開催日	発表申し込み締切日	会場
国際交流委員会	終了しました	終了しました	オンライン
若手活性化委員会	終了しました	終了しました	大阪教育大学 天王寺キャンパス (一部オンライン)
東北支部	2025 年 12 月 20 日(土)	終了しました	秋田大学 手形キャンパス
北陸甲信越支部	2026 年 2 月 7 日(土)	終了しました	富山大学
北関東支部	2026 年 3 月 15 日(日)	2026 年 2 月 13 日(金)	埼玉大学
四国支部	2026 年 5 月 30 日(土)	2026 年 4 月 30 日(木)	鳴門教育大学
中国支部	2026 年 6 月 14 日(日)	2026 年 5 月 15 日(金)	岡山大学

研究会に関する最新情報は学会 Web ページに掲載しますので、ご確認ください。

※右の QR コードより、学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます。

<https://jsse.jp/1-3>



2025 年度 第 5 回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）

〔テーマ〕科学的な資質・能力の育成に向けて

〔主催〕一般社団法人 日本科学教育学会

〔後援〕国立大学法人 埼玉大学

〔日時〕2026 年 3 月 15 日（日） 10：00～16：30（予定）

〔会場〕埼玉大学教育学部

〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255

〔対象〕会員、教員、学生、社会人

〔参加申込〕

発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

参加を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。

参加申込: 〈URL : <https://forms.gle/afEjTm1MKHTr1bMSA>〉

参加申込締切は 2026 年 3 月 8 日（日）です。（当日参加も可能です。）

〔発表申込・論文提出締切〕

発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。

発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。

発表申込: 〈URL : <https://forms.gle/afEjTm1MKHTr1bMSA> 〉

※連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

発表申込締切、および、原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2026 年 2 月 13 日（金）です。

【重要事項】原稿の提出と入金両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

多数の方々の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 北関東支部長 小倉 康（埼玉大学）

2025 年度第 6 回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）

[テーマ] 次世代を見据えた教育環境と科学教育

[主 催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日 時] 2026 年 5 月 30 日（土） 10 : 00～17 : 00

[会 場] 鳴門教育大学 地域共創棟 多目的教室 ※対面開催

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748

[対 象] 会員、教員、学生、社会人

[参加申込・締切]

発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

参加のみの場合、申込締切は当日までとなります。

発表参加の場合、[発表申込・論文提出締切]をご確認ください。

[参加申込先]

2025 年度第 6 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：早藤 幸隆（鳴門教育大学）

〒772-8502 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島 748 鳴門教育大学 理科教育コース

Tel/Fax (088-687-6409)

E-mail : hayafuji(atmark)naruto-u.ac.jp（早藤 幸隆） ※アドレスの(atmark)の部分は@です。

※参加のみの場合、当日参加可能

[発表申込・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、メールの件名を「発表申込 2025 年度第 6 回日本科学教育学会研究会（四国支部開催）」として、第一著者氏名・第一著者ふりがな・所属、すべての連名発表者氏名・所属、タイトル（サブタイトルがあればサブタイトルも）、E-mail アドレス、電話番号、連絡先を明記した E-mail を企画編集委員：早藤 幸隆（鳴門教育大学）迄お送りください。

※連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

発表申込締切および原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2026 年 4 月 30 日（木）です。

【重要事項】原稿の提出と入金両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。発表申込をした第一著者は、参加申込の必要はありません。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2>〉

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2>〉

原稿は次のウェブサイトから投稿してください。

〈URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「**四国支部**」を選んでください。

投稿完了メールは<[info\(atmark\)jsse-kenkyukai-form.jp](mailto:info@jsse-kenkyukai-form.jp)>より自動送信されます。このアドレスからのメールを受信できるように、あらかじめフィルタ設定等をご確認ください。

アドレスの(atmark)の部分は@です。

多数の方々の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 四国支部長 林 敏浩(香川大学)

2025 年度第 7 回日本科学教育学会研究会（中国支部開催）

[テーマ] 学びの多様性を支える科学教育

[主 催] 一般社団法人 日本科学教育学会

[日 時] 2025 年 6 月 14 日（日） 10：00～16：30（終了時刻は予定）

[会 場] 岡山大学教育学部 講義棟

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1

[対 象] 会員，教員，学生，社会人

[参加申込・締切]

発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。

参加費は無料です。

参加を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入の上、送信してください。

参加申込: 〈URL : <https://forms.gle/av4RS1caxoRkiWAB7>〉

発表を伴わない場合、当日の参加も可能ですが、できるだけ事前の申し込みをお願いします。

[発表申込・論文提出締切]

発表は、単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含むことが条件となります。発表申込の際に「入会申込」が完了していれば、会員として扱うこととします。

発表を希望される方は、以下の URL より必要情報をご記入ください。

発表申込: 〈URL : <https://forms.gle/av4RS1caxoRkiWAB7>〉

※連名発表者の氏名と所属は可能な限り原稿掲載順にご記入ください。

※タイトルは可能な限り申込時と同様のものを原稿に記載してください。

※プログラムは申込時の情報を元に作成されます。連名発表者やタイトルを変更されますとプログラムに反映されないことがあります。その際には、ご了承ください。

※J-STAGE に公開する『科学教育研究報告』の目次は、投稿時の原稿に示された著者とタイトルを元に作成されます。

発表申込締切、および、原稿投稿料の支払いと原稿の提出締切は、2026 年 5 月 14 日（木）です。

【重要事項】原稿の提出と入金両方が確認されない場合には、自動的に発表は取り消しとなりますので、くれぐれもご注意ください。また、入金された投稿料はいかなる理由があっても返金されません。他の研究会への振替もできません。返金等に関する問合せにも一切対応いたしませんので、予めご了承ください。発表申込みの準備は計画的に行っていただきますようお願い申し上げます。

連名発表者の研究会への参加申込は各自個別に行ってください。発表申込をした第一著者は、参加申込の必要はありません。

研究会研究報告の原稿執筆要項は学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/115-2>〉

研究会研究報告のテンプレートは学会ホームページをご参照ください。

〈URL : <https://jsse.jp/1-3/125-2>〉

原稿は次のウェブサイトから投稿してください.

〈URL : <https://jsse-kenkyukai-form.jp/>〉

研究会情報のプルダウンメニューで「中国支部」を選んでください.

投稿完了メールは<info(atmark)jsse-kenkyukai-form.jp>より自動送信されます. このアドレスからのメールを受信できるように, あらかじめフィルタ設定等をご確認ください.

アドレスの(atmark)の部分は@です.

多数の方々の申込みをお待ちしております.

日本科学教育学会 中国支部長 佐々木 弘記 (徳島文理大学)

「研究倫理に関する基本方針」の制定について

近年、学術研究における公正性や透明性の確保が社会的に強く求められており、研究倫理の重要性が一層高まっております。本学会におきましても、会員の皆様の研究活動を支援し、学術の健全な発展に寄与するため、調査研究・学術交流担当理事を中心に、シンポジウムの開催や理事会での協議を経て、研究倫理に関する基本方針の検討を重ねてまいりました。先般の第49回定時代議員総会においてご報告申し上げたところです。

この度、令和7年11月22日に開催されました第316回理事会にて、「研究倫理に関する基本方針」が承認されましたので、ここにお知らせいたします。

■ 研究倫理に関する基本方針

URL : <https://jsse.jp/ethics>

【本方針の主旨】 本方針は、個別の研究に対する審査基準や罰則を厳格に定めるものではありません。会員の皆様が自らの研究を計画・実施・公表する際に、倫理的な配慮事項を自己点検し、よりよい研究活動を推進していただくためのガイドラインとして位置づけています。

【方針の構成】 本方針は、以下の5つの柱から構成されています。

1. 社会に対する責任と貢献
2. 人権の尊重と研究への協力者の保護
3. 研究の公正性の確保
4. 安全への配慮と利益の均衡
5. 専門家としての自律と相互啓発

本学会員は、科学教育研究が社会からの信頼の上に成り立っていることを自覚し、誠実かつ責任ある研究活動を行うことが求められます。

会員の皆様におかれましては、ぜひ本方針をご一読いただき、自己点検するためのガイドラインとしてご活用くださいますようお願い申し上げます。

国際学会参加報告(77)

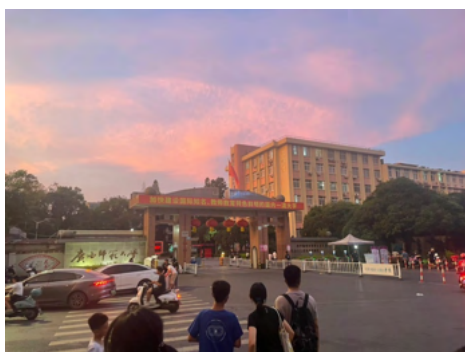
EASE (East-Asian Association for Science Education) Summer School

今年度の EASE (East-Asian Association for Science Education) Summer School は、2025 年 7 月 3～5 日に桂林（中国）で開催され、私は、日本からの学生として他 4 名の日本の学生・教員と参加しました。

今回は、隔年で行われる EASE 年会に向けた東アジアの科学教育研究者の協働を目的の 1 つとして、中国本土、香港、韓国、インドネシア、日本の 6 つの国・地域から 36 名の大学院生と 15 名の教員が集まり、「人工知能の時代における STEM 教育」をテーマとして、交流、議論、研究発表が行われました。

本大会は、1 日目に教員からのレクチャー、2 日目にグループワーク、3 日目に共同研究案の発表、といった内容で構成されていました。1 日目には、15 名の教員から、それぞれの地域における STEM 教育の現状や実践、研究など幅広い内容を伝えていただきました。2 日目のグループワークでは、異なる国・地域の学生 5～6 名と 2 名の教員で構成されたグループの中で、自身の研究内容の共有と共同研究案についての議論が行われました。研究内容を英語で共有する経験に乏しかったため、うまくできるか不安もありましたが、何とか研究内容を共有することができ、私のグループの教員からは、今後の研究の参考となるアドバイスをいただくこともできました。その後、各々の研究内容をもとに共同研究案を議論し、スライドの作成までを行いました。テーマや目的の決定、文献収集、方法の検討など、多くのグループが 2 日目の夕食時に及ぶまで活発な議論を行っていました。3 日目には、各グループから特色ある共同研究案が提案され、発表を通して、科学教育（研究）への人工知能の活用について様々な意見を聞くことができました。大会の終了時には、1 日目にはなかった一体感や達成感が、参加者全体に共有されていたように思います。

開催地である桂林は、日本の教科書でも紹介されるほど典型的なカルスト地形（石灰岩地帯）であり、街中にそびえる岩山を登ることも、印象深い経験となりました。また、寮で相部屋となった香港の学生からは、彼のストイックな研究姿勢や、研究を進める上での工夫などを聞くことができ、今後の研究のモチベーションを高めることもできました。今回のサマースクールへの参加を通して得られた、多くの成長の機会を糧に、今年の EASE 年会などへ向けて、研究活動に一層取り組んでいきたいと考えています。



（山村凌我・広島大学大学院人間社会科学研究科 院生）

8th ICASE World Conference on Science and Technology Education (アイルランド) のご案内

日本科学教育学会の連携団体である **ICASE (International Council of Associations for Science Education)** の大会が 6 月に開催されます。会員の方々もぜひご参加ください。

大会概要

テーマ：8th ICASE World Conference on Science and Technology Education

日程：2026 年 6 月 22 日（月）～25 日（木）

会場：University College Cork（アイルランド・コーク）

<https://icaseonline.net/icase2026/>

発表分野 (Strands)

口頭発表およびポスター発表が募集されています。発表分野は以下の通りです。

- Artificial Intelligence in Science and Technology Education
- Curriculum Development – Teaching, Learning and Assessment
- Sustainable Development – Climate change
- International comparative studies and trends in science education
- Initial Teacher Education and Continuing Professional Development for Science Teachers
- Industry-Education links – Careers in Science
- Laboratory Practical Work in Science and Technology Education
- Technologies in Science Education
- Science on Stage – promoting science education via outreach activities
- Science Education – the International Decade of Sciences for Sustainable Development
- Marine Education – the United Nations Decade of Ocean Science for Sustainable Development
- International Decade of Sciences for Sustainable Development
- The role of ICASE in promoting Science, Technology and Society (symposium)

日程

大会までの日程は以下をご参照ください。

2026 年 3 月 1 日：アブストラクト提出締切

250 字以内のアブストラクトを web サイトからオンラインで投稿します。

2026 年 3 月 20 日：採択通知

2026 年 3 月 31 日：早期登録料 (Early-bird) 締切

2026 年 5 月 15 日：発表者の参加登録料支払い最終日

JSSE からは、隅田会長が **Keynote Speaker** として登壇します。また、国際交流委員会から越智副委員長が学会からの派遣によって参加予定です。

その他の詳細はwebサイト <https://icaseonline.net/icase2026/> をご覧ください。

国際ランチョンミーティングのお知らせ

年会2日目の9月12日（土）昼食時に、国際交流委員会が「国際ランチョンミーティング」を開催します。海外からの留学生や訪問者も含め、学会員と一般参加者が、海外の学会での発表や国際的な科学教育研究について語り合う機会です。第50回年会では中学生・高校生の参加も可能です。

〔日 時〕 2026年9月12日（土） 12:30～13:45

〔参加申込〕 年会サイト<https://jsse.jp/jsseam/jsse50>の「国際交流委員会企画」をご覧ください。

〔参加費〕 中学生・高校生（引率教員・保護者を含む）は無料

引率教員・保護者が第50回年会の他のプログラムに参加する場合は、年会参加申込（有料）が必要です。年会のすべてのプログラムに参加できます。

年会サイト <https://jsse.jp/jsseam/jsse50>

国際ランチョンミーティングの内容の詳細は今後のレターでお知らせします。

国際学会開催情報

NARST (National Association for Research in Science Teaching) 2026 Annual International Conference

開催地：Seattle, US

期間：2026年4月19-22日

<https://narst.org/conferences/2026-annual-conference>

8th ICASE 2026 World Science and Technology Education Conference

開催地：Cork, Ireland

期間：2026年6月22-25日

発表エントリー〆切：2026年3月1日

<https://icaseonline.net/icase2026/>

※詳細は後述

EASE (East-asian Association for Science Education)

開催地：Hong Kong, Hong Kong

期間：2026年5月28-30日

<https://ease2026.eduhk.hk>

ASERA 57 2026 Conference (Australian Science Education Research Association)

開催地：Brisbane, Australia

期間：2026年6月30-7月3日

発表エントリー〆切：2026年2月末

<https://www.asera.org.au/2026-conference/>

PME49 (The 49th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education)

開催地：Helsinki, Finland

期間：2026年7月27日-8月1日

<https://www.helsinki.fi/en/conferences/pme49>

ICOTS12 (The 12th International Conference on Teaching Statistics)

開催地：Brisbane, Australia

期間：2026年7月12-17日

<https://communities.isi-web.org/event-icots12>

CERME15 (The 15th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education)

開催地：Bratislava, Slovakia

期間：2027年2月8-12日

<https://www.cerme15.org>

ICTMA-23 (The 23rd International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications)

開催地：Skukuza, South Africa

期間：2027年8月22-27日

ESERA (European Science Education Research Association) Conference 2027

開催地：Málaga, Spain

期間：2027年8月27日-9月3日

ICME-16 (The 16th International Congress on Mathematical Education)

開催地：Prague, Czech Republic

期間：2028年7月9-16日

<https://www.icme16.org/>

2025 年 日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）報告

2025 年 12 月 6 日（土）に、若手活性化委員会が担当する研究会を大阪教育大学天王寺キャンパスおよびオンデマンド会場（Slack）で開催しました。本研究会は「次世代の科学教育研究」をテーマとしており、『科学教育研究』の若手会員を対象とした特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」（通称：若手特集）ともタイアップしています。前号に引き続き、研究会の報告を掲載いたします。

1. 参加者交流企画：研究交流カフェ

研究会の午前中は、参加者同士が「研究」を中心とした交流と情報収集を行うことを目的とした企画が催されました。「インタラクティブ型」「投影型」「設置型」の 3 つの形態の企画が用意され、形態ごとに以下のようなブースが展開されました。

インタラクティブ型	投影型	設置型
1. リサーチコネクト （どんな人がいるかを知る） 2. トークテーマの抽出・整理 3. 研究交流 （コーヒープレイクをしながら研究交流）	映像を放映 ・ 論文執筆 Tips 動画 ・ リレーインタビュー	・ 壁面アンケート ・ 受賞論文コレクション （論文賞、奨励賞の過去 5 年分を紹介）

参加された方からは

- リサーチコネクトでは普段接点のない他大学の院生や先生方と話すきっかけになり、孤独になりがちな研究活動のモチベーション向上につながりました。
- 研究交流カフェがおもしろかったです！参加者が発信できるのが他の学会と違って研究アイデアをもらえる機会が増えるのと、色々な方と知り合えて楽しいです。
- 論文執筆 Tips 動画は、今の自分にとって非常にタイムリーで参考になりました。
- 伝言板に書いてあることから、自分と関心が似ている方々とお話できて楽しかったです。
- 全体的に冒険のようなワクワクするレイアウトで楽しかったです。

といった感想をいただきました。本研究会の主目的の一つは参加者の研究交流を促すことであり、そのために参加者同士をつなぐことができるような企画を準備してきました。このような感想をいただき、運営側としても大変嬉しく思います。

2. 研究発表

午後はポスターセッション形式での研究発表が行われました。今回の研究会では、46 件の研究発表が行われました（対面 38, オンデマンド 8 件）。また、当日は 90 名の方に対面参加いただき、オンデマンド会場には 79 名の方に参加いただきました。

参加者された方からは、

- 自分の研究に対する鋭い指摘もいただき、今後の修正方針が見えました。様々な分野の実践研究を一度に見ることができ、大変刺激を受けました。
- 演題数に対して、ディスカッションの時間が比較的ゆとりを持って設定されており、発表した立場としては大変ありがたかったです。
- いつもは時間が足りなくて十分に見て回れないことがあったのですが、今回は、ポスター発表の各回の時間が十分あって、とてもよかったです。

といった感想をいただきました。今回の研究会では、前年度までの研究会の運営方法を踏まえ、ポスター発表の時間を十分にとって「研究」交流を活発にしようと企図していました。今回は対面での発表件数が前年に比べて少なかったことも理由ではありますが、ポスター発表の時間について好意的な感想をいただけて嬉しく思います。

オンデマンド発表についても以下のようなご感想をいただきました。

- 当日まではなかなか時間が取れないので、開催後に数日でもオンデマンド発表を視聴できるのであれば大変ありがたいと思います。またいろいろな事情で、当日参加できない方にも門戸を広げる意味で良いと思います。
- Slack 上の発表動画やコメントが整理されていたため、必要な情報にアクセスしやすかったです。時間や場所に限定されず、自分のペースで視聴やコメントができるため、オンデマンド形式は非常に参加しやすかったです。
- 事前に研究内容を知った上で対面のやり取りができるのはポスターの読み込みや内容把握の時間を短縮出来るのでメリットだと感じた。

一方で、対面参加者の動画提出については、

- 当日参加者の動画作成が少し負担が大きいように感じました。Slack での共有は、動画でなく、原稿やポスターなどでも、十分な気がしました。また、動画の代わりに原稿やポスターが Slack で共有されていると、移動中にも確認・コメントできるので、個人的にはありがたいです。
- 普段の校務に加え、動画の編集時間を確保するのが非常に困難でした。数分の動画でも、納得いくクオリティにするには数時間かかります。

といったご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見は、今後の研究会運営向上のために役立てさせていただきます。

若手活性化委員会が開催する研究会では、オンデマンド発表を含む発表の中から、優秀な研究発表に対して「ベストプレゼンテーション賞」を授与しています。今回の対面発表での受賞者は、学部・修士の部 1 名、一般の部 2 名でした。また、オンデマンド発表の受賞者は 1 名でした。ベストプレゼンテーション賞に選ばれた方は以下のとおりです。誠におめでとうございます。

【ベストプレゼンテーション賞受賞者】

ポスター発表《一般の部》

下村 勝平（京都文教大学）

算数科における推論の妥当性を示す説明の質的転換を促す教材の開発

本田真大（明治学院大学心理学部・九州大学大学院人間環境学府）

大学生の STEM 活動への興味と学習方略，動機づけ要因，パフォーマンスとの関連

ポスター発表《学部・修士の部》

升谷有里（島根大学大学院教育学研究科）

分数の第一義から第二義への意味の拡張を目指した教材の開発—小学校第 5 学年の分数字学習を対象として—

オンデマンド発表

矢萩陽介（島根大学大学院教育学研究科）

異種の 2 量のユニット化による問題解決能力の育成を目指した授業構想及び調査計画

最後になりましたが，本研究会はボランティアの皆様のご協力があったからこそ，円滑に開催することができました．運営一同，改めて皆様のご協力に心から感謝申し上げます．

【ボランティアに参加してくださった方】

禰覇陽子様，遠藤蓮様，下村勝平様，北野成親様，西濱慧様，武野風紗様，河上涼香様，徳岡美咲様，先山直様

<その他>

若手活性化委員会では，論文執筆に関して気軽にノウハウを学ぶことができるオンデマンド動画「Tips 動画」を YouTube 上で公開しています．「文章の書き方」「先行研究の調べ方」「本の読み方」「イントロの書き方」「考察の執筆で大切にしたいこと」等など，役立つ Tips を動画で学ぶことができます．ぜひご視聴ください．

https://www.youtube.com/playlist?list=PLIXmLhKl7Y2tumBx1LX_GCPbCghsc3LeS

上のリンクは一般公開シリーズです．会員限定公開シリーズについては，メール等でリンクをお知らせいたします．

また，研究会に関わる情報は学会 HP のほか，若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで随時公開していきます．どうぞご期待ください．

Facebook ページやメーリングリストの登録は，随時，受け付けています．ぜひご登録ください．

○若手活性化委員会 Facebook

<https://www.facebook.com/jssewakate/>

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

<https://goo.gl/tClQb4>

（高知大学：袴田綾斗）

若手研究者、「初心」を語る

今回は、研究会においてベストプレゼンテーション賞を受賞されたみなさまから、受賞に際しての言葉を寄稿いただきました。また加えて、2024年度実施の「論文執筆対面サポート」に参加された方から、投稿論文の採録にあたってのお声もいただきました。

「研究を進める」というのは、研究者個人が行うことではありません。周りからの、そして周りへの支援、指導、励ましなどがあって初めて成立するものです。寄稿いただいたみなさまの「初心」からも、それがひしひしと感じられるのではないのでしょうか。

数学教育の発展に貢献できる研究者を目指して

京都文教大学 下村勝平

この度は、「ベストプレゼンテーション賞」という身に余る栄誉をいただき、誠にありがとうございます。

研究会での発表において、私の稚拙な内容にお付き合いいただき、ともに議論をしていただいた皆様に感謝申し上げます。

私の研究のルーツは、小学校教員をしていた頃の子どもたち、そして良き師との出逢いにあります。小学4年生の子どもたちとの「わり算の筆算」の授業において、「わからない」と呟く子どもがたくさんいました。どれだけ私がわかりやすいと思う指導を行なっても、わからない子どもはわからないままでした。その混沌とした状況は、今でも鮮明に思い出されます。今思うと、その頃の私は子どもがどのように算数・数学をわかるのか、子どもが算数・数学を「わかる」とはどういうことなのかを考えることができていませんでした。その反省が今の私の原動力となっています。そんな未熟な教員だった私に、研究者としての道を志すきっかけを与えてくださったのは、2名の恩師の存在があります。私の授業や研究発表の場に足をお運びいただき、厳しくもあたたかい激励をいつも与えてくださりました。子どもの実態を大切にしながら、授業を科学する姿に感銘を受けました。また、自身の研究に誇りを持ち、楽しそうに語る姿に憧れを抱きました。私も、子どもの姿に基づいて科学的に教育を語ることのできる研究者でありたいと強く思っております。

私には未だに胸を張れる研究の成果は多くありません。受賞の栄は、私に研究推進の力を与えてくれました。受賞をいただいた発表の内容を一つの成果として皆様に届けられるよう、筆を執っております。研究者としての人生は始まったばかりです。私に数学教育の研究を志す契機を与えてくれた、子どもたちと恩師への感謝を忘れず、生涯をかけて僅かながらも数学教育の発展に貢献できるよう邁進する所存です。

ベストプレゼンテーション賞受賞にあたって

明治学院大学 / 九州大学大学院人間環境学府 本田真大

このたび、ベストプレゼンテーション賞を受賞させていただきましたこと、誠にありがとうございます。本賞は、日頃よりご指導いただいている指導教員の先生をはじめ、多くの先生方、ならびに大学院生・学生の皆さまのご支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。

本発表は、STEMの活動に関する興味をテーマとしており、コロナ禍の中で得た着想を出発点として進めてきた研究です。緊急事態宣言により学校が一斉休校となり、研究活動は大きな制約を受けました。対面での研究が困難となり、自身の研究も思うように進まない状況が続きましたが、Web調査を活用するなど、試行錯誤を重ねながら取り組んできました。本発表ではその後に進めてきた研究の一つを報告しました。

若手活性化委員会企画の研究会には、2023年に初めて参加し、今回が初めての発表となりました。当日は、発表内容に対して多くの貴重なコメントをいただき、大変意義のある研究発表の機会となりました。また、事前に他の発表者の動画を拝聴し、コメントを行っていたこともあり、それらを踏まえて当日は研究について深く議論することができたと感じております。このような発表形式を通じて、非常に多くの学びを得られる貴重な機会となりました。本研究会を通して、得られた知見やご意見を今後の研究活動に活かすとともに、ご指導・ご支援くださる方々への感謝の気持ちを忘れず、真摯に研究活動に取り組んでまいります。

感謝を胸に

島根大学大学院教育学研究科 升谷有里

この度は、ベストプレゼンテーション賞という輝かしい賞を頂戴し、誠に光栄に存じます。この受賞は、これまでの研究活動を支えてくださった皆様のお支えがあったからに他なりません。特に、指導教員の先生には、筆者が学部生の頃から4年間に渡り、日々温かなご指導を賜りました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

本レターの執筆にあたり、これまでの研究活動を振り返る機会をいただきました。

そこで、筆者の研究の軌跡を辿ったところ、筆者が「学会」というものに初めて参加したのは、若手活性化委員会の皆様主催の2022年度第4回研究会でした。その時は、「学会」というもののイメージもないままに発表の時間を迎え、不安や緊張を胸に登壇したことを今でも鮮明に思い出することができます。そのような中、無事に発表を終えることができたのは、発表できる状態になるまでご指導いただいた指導教員の先生、また共に研究を進め、質疑の際にもたくさん助けてくださった共著者の先生のお支えがあったからだと思っています。さらに、発表をお聞きいただいた研究者の方々の厳しくも建設的なご意見や、研究の価値を認めていただけるようなお言葉も、筆者の研究活動の支えとなっています。今では、学会での発表も当時ほどの緊張をせず挑めるようになりましたが、様々な人に日々支えていただきながら研究活動に勤しんでいる点は、今日でも変わらないことです。

また筆者は、算数科における分数学習を対象に研究を遂行してきています。そこでは、子どもの生の

姿をもとに分析・考察を行ってきました。このように、子どもの姿をもとに物事を考えることができたのは、調査にご協力いただいた学校の先生方、そして子どもたちの存在があったからに他なりません。

これまでの研究活動を振り返りなかで、日々様々な人に支えていただきながら研究活動に邁進してきたことを改めて痛感しました。研究と出会う以前の“研究”へのイメージは「孤独に 1 人で行うもの」でしたが、今では、研究は孤独な側面も持ち合わせながらも「様々な人の支えの上に成り立つものである」との考えに至っています。

大学院 2 年目も残りわずかとなり、いよいよ修了の刻が近づいてきましたが、この度の受賞を励みに、常に周囲の人への感謝を忘れず研究活動に精進して参ります。

最後になりますが、この度はこのような光栄な賞をいただき、誠にありがとうございました。そして、これまでの筆者の研究活動を支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

伝えることを問い直す研究発表

島根大学大学院教育学研究科 矢萩陽介

この度は、ベストプレゼンテーション賞を賜り、大変光栄に存じます。貴重な発表の機会をいただき、また、本研究に関心を寄せてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

今回の発表では、令和 5 年度全国学力・学習状況調査に出題された比例関係を用いる問題を分析し、その結果を踏まえて、異種の 2 量のユニット化による問題解決能力の育成を目指した授業構想および調査計画を提案しました。当該問題について、理論的視座から困難点を検討した結果、数量関係から組み立てユニットを構成し、それを柔軟に分割・反復する思考の有無が、問題解決を左右していることが示唆されました。本発表は、その思考を支える授業の在り方を改めて問い直す試みでもありました。

本賞をいただけた背景には、ご指導いただいている先生の存在があります。研究内容そのものだけでなく、「その考えをいかに他者に伝えるか」という点まで丁寧にご指導いただけてきたことが、オンデマンド発表という限られた条件下での「伝わる表現」につながったと感じています。また、日頃のゼミにおいて、指導教官の先生や仲間に対して、自分の考えが正しく伝わるよう意識しながら説明し、率直な指摘をいただけてきた経験も、大きな支えとなりました。

オンデマンド発表では、聴衆の反応を直接確かめることができません。そのため、誰にとっても分かりやすいスライド構成や言葉遣いを意識し、研究の要点が伝わるよう心掛けました。その結果、算数・数学教育に限らず、他の分野で研究に携わる方からもご意見を頂戴することができ、研究内容を多面的に捉え直す契機となりました。

今後は、今回提案した授業構想を実践に移し、その有効性をデータに基づいて検証していくことが課題です。本発表を通して得られた学びとご助言を大切にしながら、研究を一層深化させていきたいと考えております。改めまして、本研究会の運営に携わった皆様、そして貴重なご意見をお寄せくださった皆様に、深く御礼申し上げます。

初めての論文採録を受けて

早稲田大学大学院人間科学研究科／愛知県立旭陵高等学校 加藤圭太

2025 年 10 月 20 日、日本科学教育学会「科学教育研究」編集委員会から研究論文の採録通知をいただきました。これまでに、別の学会誌でショートレターが採録された経験はありましたが、いわゆる原著論文が採録されたのはこれが初めてのことでした。人生初の採録決定から論文が公開された現在までに、私の中に浮かんだ＜3 つの思い＞を、時系列に沿って記させていただきます。

採録の連絡を受けた瞬間の正直な気持ちは、＜ほっとした＞というものでした。自身にとって初めての原著論文の採録が決まったのは、博士課程 3 年目の秋でした。周囲と比較しても仕方のないことですが、順調な方であれば博士論文を提出し、公聴会に向けて防御力を高めている頃合いでしょうか。3 年目にしてようやく 1 本目の業績ができたことに、本当にほっとしました。振り返ると、ずいぶんと遠回りをしたような気もしますが、自分にとっては必要な道のりを歩み、これでも最短距離だったのではないかと思います。共著者である指導教員からかけ続けられてきた「諦めなければ博士号はとれる」という言葉の意味を、ようやく少しだけ実感することができ、師匠の偉大さを改めて感じました。

その後、若手研究会の原稿、最初の投稿原稿、そして最終稿の 3 つを見比べる中で、それらの質の変容を目の当たりにし、深い＜感謝＞の気持ちが芽生えました。今回の論文は、若手研究会主催の「論文執筆対面サポート」でいただいた助言を踏まえて執筆したものです。サポーターの 2 名の先生からは、温かい励ましとともに、「どの先行研究に位置づけて読めばよいか」「質的分析の理論的枠組みをどう設定するか」という本質的な問いをいただきました。その場ですぐに答えることはできませんでしたが、じっくりと考えるべき重要な宿題をいただきました。その後、自らの研究を「科学教育における教師教育研究」と位置づけ、「TPACK」を理論的枠組みに据えることで、当初は揺らいでいた論文の背骨を据えることができました。また、この年の研究会で初めてじっくりとお話させていただくことができ、論文を読んでひそかに尊敬していた質的研究者の先生からいただいた、「めくるのは研究じゃない」「研究論文をより人間らしく、小説のように」という言葉も、論文執筆における大きな指針となりました。加えて、査読者の先生方からも非常に建設的なコメントをいただき、それに応えようと必死に取り組んだ結果、修正稿を提出する際には、原稿が確実に良くなっていることを自分でも実感することができました。この感謝の気持ちは、科学教育学会で査読を任される機会を得た際に、今回いただいたような真摯な姿勢で原稿に向き合うことで、未来に向かって少しずつ返していけたらと思います。

最後に、J-STAGE にて原稿が公開されて＜嬉しい＞という気持ちもありました。これは自分の業績が 1 行増えた喜び以上に、ようやく自らの研究を紹介できる論文ができたことへの喜びでした。これまでに、研究者や実践者の方に自分の研究の話をさせていただき、せっかく関心をもっていただいても、「詳細なことはこの論文に書きましたので、ぜひ読んでみてください」と提示できる論文がないことに、歯がゆさと悔しさを抱えてきました。これからは、そういった思いをすることが今回の研究に関してはなくなると思うと、嬉しい気持ちになりました。また、これまでは偉大な先人たちの「巨人の肩」に乗せていただくだけの存在でしたが、今回の採録を通じて、自分自身の小さな肩にも足場ができ、いつか誰かがそこに乗ってくれるかもしれないという希望を持てたことも大きな喜びです。

末筆ながら、ご関心を持っていただける方には、以下の論文をご一読いただけますと幸いです。

加藤圭太, 森田裕介 (2025): 通信制高校の数学教師が必要性を認識する専門的知識の一検討—フォーカス・グループによるデータ収集と TPACK フレームワークを用いた質的データ分析を通して—, 科学教育研究, 49,4, 345-362.

特集のお知らせ（再掲）

編集委員会では、若手活性化委員会と連携し、下記の主旨で「科学教育研究」第50巻第4号での特集を企画します。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集いたします。ふるってご投稿のほどお願い申し上げます。

なお、投稿規程により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があります。また、この特集には投稿条件が設定されています。その点ご注意ください。

編集委員長 青山和裕
特集編集部会長 荒谷航平
若手活性化委員会委員長 岡本紗知

記

特集名：次世代を担う若手研究者の科学教育研究

将来の科学教育研究を牽引する人材を本学会から輩出することを大きな目的として、また若手研究者のキャリアパス形成を支援することを目的として、若手会員を対象とした特集（以下、若手特集と称する）によって若手会員の研究活動を支援する取り組みが2017年に始まった。2025年で9回目となる。これまで多くの若手会員に研究会発表と論文投稿を促し、『科学教育研究』第42巻以降の各巻第4号に、多くの若手会員の研究成果を掲載してきた。2025年も若手特集によって若手会員の研究活動のさらなる支援と、研究成果の公表機会の提供を行う。

2024年度までの若手特集では、若手活性化委員会の下部組織としてサブミッション・アドバイザーボードを設置し、若手特集への投稿希望者に対する助言を組織的に実施してきた。2025年度には、サブミッション・アドバイザーボードを発展的に解消し、若手活性化委員会による論文投稿支援方策の新たな試みとして、①論文執筆に関する動画集の公開、②論文執筆のための対面サポート、という2つの取り組みを実施した。今回の若手特集では、これら新たに導入した論文投稿支援の実施体制を継続する計画である。なお②に関しては、論文の構想段階からの支援の充実を意図して年会時（9月）に実施することとした。ただし、これらの支援を受けることは、あくまで任意であり、今回の若手特集の投稿条件ではない。

なお、若手特集編集部会メンバーは過去の若手活性化委員会構成員を中心に構成し、若手活性化委員会による論文投稿支援者と若手特集における査読者の重複を避けるという、これまでの方針を継承することで、若手会員の研究活動支援及び本学会の学術的発展のための特集とすることに加えて、若手活性

化委員会の活動理念を共有した過去の若手活性化委員会構成員および若手会員のキャリアパスの形成にもつなげることを今回の若手特集においても目指す。

また、若手特集への投稿条件については、若手会員への支援を積極的に提供するために、今回の若手特集においても、これまでの投稿条件を継承する。したがって、若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2025年12月6日（土）、大阪教育大学、対面開催（一部オンライン））での研究発表が今回の若手特集の投稿条件となっている。詳細は、下記の投稿条件を確認されたい。若手特集は、重要性がより増してきている学位取得に向けた若手会員の足掛かりとなり、そして科学教育という学術領域の一層の充実と発展を促す場となることを目指している。多くの若手会員からの投稿を期待している。

特集編集部会の構成メンバー

部会長：荒谷航平（北海道教育大学）

副部会長：花園隼人（宮城教育大学）、大谷洋貴（大妻女子大学）

特集編集部会委員：（調整中）

投稿条件

以下の（1）～（3）の3点の条件すべてを満たした論文投稿を受け付けます。これらの条件を満たしていないと判断された論文につきましては、一般論文としての査読対象とさせていただきます。あらかじめご承知おきください。

- （1）以下の（a）、（b）、（c）のいずれかを満たす学会員が、投稿論文の筆頭著者となっていること。
 - （a）投稿締切日時時点で、39歳以下である。
 - （b）投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。
 - （c）投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後8年未満（※1）であるか、博士の学位取得後8年未満（※2）である。

（※1）投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後8年未満となることを含む。

（※2）投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となることを含む。

- （2）若手活性化委員会が担当する研究会（開催予定：2025年12月6日（土）、大阪教育大学、対面開催（一部オンライン））で、筆頭著者として研究発表を行っていること。

- （3）上記（2）の研究発表内容に基づいた論文であること。

事前申込締切：2026年2月末日

限られたスケジュールの範囲で査読プロセスを円滑かつ確実に進めるため、事前申込を必須とします。投稿を予定している方は大変お手数ですが、メールタイトルを「特集：次世代を担う若手研究者

の科学教育研究の事前申込」とし、以下の事前申込内容を jsse-hen [atmark] nacos.com までお送りください。

--- (事前申込内容ここから)

特集：次世代を担う若手研究者の科学教育研究の事前申込

- ・著者名・所属：
- ・仮タイトル：
- ・論文種別：
- ・E-mail アドレス：
- ・電話番号：
- ・連絡先住所：
- ・投稿条件 (1) について：

※満たしている項目の [] 内に●を記入してください。

[] (a) 投稿締切日時時点で、39 歳以下である。

[] (b) 投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかに在学している。

[] (c) 投稿締切日時時点で、修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後 8 年未満 (※1) であるか、博士の学位取得後 8 年未満 (※2) である。

(※1) 投稿締切日までに修士課程、博士課程、専門職学位課程のいずれかを修了または退学後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと修了または退学後 8 年未満となることを含む。

(※2) 投稿締切日までに博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後 8 年未満となることを含む。

--- (事前申込内容ここまで)

投稿受付開始：2026 年 1 月 1 日

投稿締切：2026 年 3 月 31 日

*特集に投稿する場合は、投稿システムの「手順 5：設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください。

*投稿論文には、日本科学教育学会研究会研究報告に加筆した旨の記載をお願いします。(執筆要領 4.(2) 参照)

*査読は、投稿締め切り後に開始します。

発刊予定：2026 年 12 月

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については、一般論文としての査読を継続いたします。

以上

1. 新規投稿論文（2025.12.1～2026.1.31）： 14 編

【内訳】

和文 14 編

英文 0 編

2. 査読中論文（2026.1.31 現在）： 37 編

【内訳】

著者に差し戻し中（受付前）： 2 編

担当編集委員選出中： 0 編

査読者選出中： 2 編

査読者諾否待： 0 編

査読中（1 回目）： 7 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中： 4 編

改訂稿待ち： 13 編

査読中（2 回目）： 2 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中： 2 編

編集委員長による最終判定中： 5 編

3. 掲載決定論文（2025.12.1～2026.1.31）： 5 編

【内訳】

研究論文： 4 編

総説・展望： 0 編

資料： 1 編

プラザ： 0 編

【合計】

50-1 号： 3 編（通算 4 編）

50-2 号： 2 編（通算 2 編）

4. 投稿状況及び掲載決定状況の推移（2022.12.1～2026.1.31 現在）

(2026年1月31日 現在)										
	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数 （掲載号）		招待論文数 （掲載号）		掲載不可論文数 （見なし取り下げを含む）	
	和 文	英 文	和 文	英 文	和 文	英 文	和 文	英 文	掲載不可	取り下げ
2022年 12月	6	0	34	0	1 (47-1)	0 (47-1)	0		2	0
					0 (47-2)	0 (47-2)	0			
2023年 1月	7	0	30	0	2 (47-1)	0 (47-1)	0		9	0
					0 (47-2)	0 (47-2)	0			
2023年 2月	8	0	31	0	0 (47-1)	0 (47-1)	0		3	0
					4 (47-2)	0 (47-2)	0			
2023年 3月	17	0	35	0	5 (47-2)	0 (47-2)	1 (47-2)		8	0
					0 (47-3)	0 (47-3)	0			
2023年 4月	19	0	48	0	1 (47-2)	0 (47-2)	2 (47-2)		4	1
					0 (47-3)	0 (47-3)	0			
2023年 5月	11	0	43	0	0 (47-2)	0 (47-2)	0		11	2
					3 (47-3)	0 (47-3)	0			
2023年 6月	6	0	41	0	3 (47-3)	0 (47-3)	3		4	0
					1 (47-4)	0 (47-4)	0			
2023年 7月	5	1	39	1	1 (47-3)	0 (47-3)	0		3	1
					2 (47-4)	0 (47-4)	0			
2023年 8月	8	0	36	0	0 (47-3)	0 (47-3)	0		7	0
					5 (47-4)	0 (47-4)	0			
2023年 9月	4	1	29	1	6 (47-4)	0 (47-4)	0		5	0
					0 (48-1)	0 (48-1)	0			
2023年 10月	18	0	36	1	5 (47-4)	0 (47-4)	0		5	0
					1 (48-1)	0 (48-1)	0			
2023年 11月	20	0	53	1	0 (47-4)	0 (47-4)	0		1	2
					0 (48-1)	0 (48-1)	0			
2023年 12月	4	0	52	1	1 (48-1)	0 (48-1)	0		4	0
					0 (48-2)	0 (48-2)	0			
2024年 1月	7	0	51	1	0 (48-1)	0 (48-1)	0		6	2
					0 (48-2)	0 (48-2)	0			
2024年 2月	13	0	53	0	2 (48-1)	0 (48-1)	0		7	0
					2 (48-2)	1 (48-2)	0			
2024年 3月	21	0	55	0	5 (48-2)	0 (48-2)	0		5	4
					0 (48-3)	0 (48-3)	0			
2024年 4月	26	0	56	0	6 (48-2)	0 (48-2)	0		15	1
					3 (48-3)	0 (48-3)	0			
2024年 5月	10	0	43	0	1 (48-3)	0 (48-3)	0		17	1
					1 (48-4)	0 (48-4)	0			
2024年 6月	9	0	42	0	0 (48-2)	0 (48-2)	0		5	0
					5 (48-3)	0 (48-3)	0			
2024年 7月	7	0	41	0	1 (48-3)	0 (48-3)	0		5	1
					1 (48-4)	0 (48-4)	0			
2024年 8月	3	0	31	0	0 (48-3)	0 (48-3)	0		6	0
					7 (48-4)	0 (48-4)	0			
2024年 9月	2	0	21	0	0 (48-3)	0 (48-3)	0		7	0
					5 (48-4)	0 (48-4)	0			
2024年 10月	19	0	32	0	2 (48-4)	0 (48-4)	0		5	0
					1 (49-1)	0 (49-1)	0			
2024年 11月	13	1	34	1	0 (48-4)	0 (48-4)	0		9	0
					2 (49-1)	0 (49-1)	0			
2024年 12月	2	0	28	1	0 (48-4)	0 (48-4)			7	0
					1 (49-1)	0 (49-1)				
2025年 1月	9	0	27	0	0 (49-1)	0 (49-1)			10 (うち英文1)	1
					0 (49-2)	0 (49-2)				
2025年 2月	10	0	32	0	2 (49-2)	0 (49-2)			2	1
					0 (49-3)	0 (49-3)				
2025年 3月	7	0	32	0	5 (49-2)	0 (49-2)			2	0
					0 (49-3)	0 (49-3)				
2025年 4月	23	0	46	0	3 (49-2)	0 (49-2)			5	0
					1 (49-3)	0 (49-3)				
2025年 5月	7	1	44	0	0 (49-2)	0 (49-2)			7	1
					2 (49-3)	0 (49-3)				
2025年 6月	5	0	34	0	4 (49-3)	0 (49-3)			10	1
					0 (49-4)	0 (49-4)				
2025年 7月	10	0	36	0	1 (49-3)	0 (49-3)			6 (うち英文1)	0
					1 (49-4)	0 (49-4)				
2025年 8月	13	1	41	0	0 (49-3)	0 (49-3)			5	1
					3 (49-4)	0 (49-4)				
2025年 9月	6	0	31	0	5 (49-4)	0 (49-4)			9	2
					0 (50-1)	0 (50-1)				
2025年 10月	11	0	31	0	1 (49-4)	0 (49-4)			9	0
					1 (50-1)	0 (50-1)				
2025年 11月	11	1	40	1	0 (49-4)	0 (49-4)			2	0
					0 (50-1)	0 (50-1)				
2025年 12月	10	0	45	0	1 (50-1)	0 (50-1)			4	0
					0 (50-2)	0 (50-2)				
2026年 1月	4	0	37	0	2 (50-1)	0 (50-1)			8	0
					2 (50-2)	0 (50-2)				

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 276 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事： 大貫麻美（白百合女子大） 向 平和（愛媛大）

委 員： 内ノ倉真吾（鹿児島大） 辻山洋介（群馬大） 舟生日出男（創価大）
中村大輝（宮崎大） 日下智志（鳴門教育大） 増田有紀（埼玉大）
袴田綾斗（高知大）

幹 事： 谷塚光典（信州大） 村田翔吾（日本体育大） 後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷（株） 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 一般社団法人日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2419484 一般社団法人日本科学教育学会